

希望

チューリツヒ日本人学校便り

平成 29 年 9 月 11 日発行

第 17 号

編集発行 鈴木史良

地震/火災避難訓練の実施

—— 日頃の生活から身につけたい危機管理の習慣 ——

9月8日(金)、2校時目が開始してから数分たった後のこと、校内にけたたましい音が鳴り響きました。授業をおこなっていた教師は各教室に備え付けのトランシーバーをオンにし、地震発生、そして家庭科室での火災発生の報を受け取りました。机の下に身を隠していた子どもたちは教師の指示のもと、避難経路を通過してグラウンドに避難しました。避難開始から全員の点呼が終了するまでかかった時間は2分5秒。あわてたり、無駄口をしたりすることもなく、すみやかな避難ができたと思います。

避難した場では、私から火災の怖さについての話をしました。子どもたちは避難するときの「おかしも（おさない、かけない、しゃべらない、もどらない）」という合言葉を知っています。なぜそうすることが必要なのでしょうか。低・中学年の子どものと、火災による死亡原因は火焰によるものと考えがちです。しかし実際のデータによると、煙に巻かれて息ができなくなったためということが80%にのぼるそうです。火事に遭遇した場合は、煙を吸い込むことがいちばん危険だということです。煙には一酸化炭素やシアン化水素等の有毒ガスも含まれていますので、避難する際には、なるべく低い姿勢になり、ハンカチで鼻や口を押えて、すばやく避難することが重要になるわけです。

その後、全員で校内を巡り、出火場所による避難経路の違いを確認したり、消火器位置を確認したりしました。図書室での意見交流では、阪神淡路大震災や東日本大震災後の避難所の様子がスライドで紹介され、説明する教師の言葉に耳を傾けました。意見交流の場でも出された子どもたちの主な意見を紹介します。

<子どもたちの意見>

- ・初めて外の非常階段を使って逃げる事ができた。
- ・体育館や校舎内に置かれた消火器の場所を知ることができた。
- ・避難後の生活では自分にできることを無理せずにとやったらよいということがわかった。
- ・この訓練で学んだことを今後の生活に生かしたい。

防犯ブザーや各教室設置のトランシーバーなど、新たに設置された危機管理機器類を有効に活用していくためにも、避難訓練はたいへん有益でした。



保護者主催バザー、雨天でも盛況

9月9日（土）の午前11時30分から午後2時30分まで、毎年恒例の保護者主催バザーが開催されました。今年は終日、雨がしとしと降る寒い日となりました。全日制のお父様方には午前9時からの机、椅子、テント張りなどの会場準備、そして終了後の片づけ。お母さま方には「おもちコーナー」用のおもちづくり、販売をおこなっていただきました。子どもたちも販売に協力しました。あいにくの天気でしたが、おもちコーナーにはお客様の長い列ができるほどの人気がありました。それを目にして、毎年、このバザーで食べるおもちを楽しみにして下さっている方々が多いことを実感いたしました。実際、お子さんが全日制や補習校とはかかわりがないご家庭の方もいらっしゃり、バザーを楽しんでいました。

その他にも補習校保護者の皆様による「うどんコーナー」、「焼きそばコーナー」「たこ焼きコーナー」「カレーコーナー」「日本食惣菜コーナー」と例年にも増して充実していました。また、食品以外にも金魚すくい、ヨーヨー、的当てゲーム、ペットボトルボーリング、古本市…etc. まだまだ書き足りませんが、親子で楽しめるコーナーが盛りだくさんでした。日本では

どの地方でも、夏祭りや縁日で見かける風景ですが、スイスにあってこのような機会に恵まれることはそうそうありません。子どもも大人も日本文化に触れ、楽しむよい機会になったと思います。

このバザーは学校主催ではなく、保護者主催のバザーとして開催されています。バザー委員さんによる企画・計画のもと、保護者のご希望により、学校施設を開放したり、教職員がお手伝いしたりするという形にさせていただいています。毎年楽しみにしている子どもたちのため、今後も長く、そして無理なくバザーが継続できますよう、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。保護者の皆様には、お休みのところを一日、バザー運営にご尽力くださり、深く感謝申し上げます。



大人気の「おもちコーナー」

小学部2年生のミニ発表会

9月7日（木）の朝の会の時間に、小学部2年生の国語学習の成果を発表する会がおこなわれました。「僕が大すきなもの」として、K・Sさんが発表したのは、冬にスキーに行き、ボーゲンやパラレルターンができるようになったという発表でした。みんなの前でも、大きな声で堂々と発表する姿が立派でした。1月には本校のスキー教室があります。はじめてスキーを履いた子どもでもぐんぐん上達します。楽しみですね。



大きな声で堂々と学習成果を発表